理学療法時の意欲を向上させる声かけの 言い回しに関する予備的研究

——肯定的、否定的な言い回しの比較——

*Preliminary Study of Physical Therapists' Ways of Communicating
to Motivate Patients: Comparison of Positive Phrases and Negative Phrases*

喜多 一馬¹⁾ 池田 耕二²⁾

KAZUMA KITA, RPT¹⁾, KOJI IKEDA, RPT, PhD²⁾

¹⁾ Department of Rehabilitation, North Osaka Police Hospital: 1-2-2 Muroyama, Ibaraki-shi, Osaka 567-0052, Japan TEL +81 72-643-6921

E-mail: kitakazuma@gmail.com

²⁾ Department of Physical Therapy, Faculty of Health Science, Osaka Yukioka College of Health Science

Rigakuryoho Kagaku 32(1): 35-38, 2017. Submitted Jul. 15, 2016. Accepted Sep. 2, 2016.

ABSTRACT: [Purpose] The purpose of this study was to clarify the effects of physical therapists' ways of communicating to motivate patients. [Subjects and Methods] The subjects were 37 inpatients (17 males, 20 females, aged 69.9 ± 12.6). We investigated and compared the effects of positive phrases with those of negative phrases, by survey, in the three situations: using the toilet, walking, and experience of pain. [Results] The results suggest that positive phrases used in the three situations were effective at increasing patients' motivation, whereas negative phrases were not. [Conclusion] Physical therapists who encouraged patients with positive phrases effectively increased their motivation.

Key words: physical therapy, motivation, inquiry survey

要旨:〔目的〕理学療法時の肯定的、否定的な声かけの言い回しが、患者の意欲の向上にどう影響するかを明らかにすること。〔対象と方法〕対象は、調査に協力を得られた入院患者 37 名（男性 17 名、女性 20 名、年齢 69.9 ± 12.6 歳）とした。紙面によるアンケートにて、トイレ、歩行、疼痛の 3 つの場面を想定し、各場面で肯定的および否定的な声かけの 2 つの言い回しを設定し、意欲の向上がみられるかを調査し比較した。〔結果〕3 つの場面全てにおいて、肯定的な声かけの言い回しで患者の意欲の向上が認められ、否定的な声かけの言い回しでは意欲の向上は認められなかった。〔結語〕理学療法時の肯定的な声かけの言い回しは、患者の意欲を向上させることが示唆された。

キーワード: 理学療法、意欲、アンケート調査

¹⁾ 北大阪けいさつ病院 リハビリテーション技術科：大阪府茨木市室山 1-2-2 (〒567-0052) TEL: 072-643-6921

²⁾ 大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科

I. はじめに

高齢社会を迎え、理学療法が重度障害者や終末期患者を対象にすることが多くなってきた昨今、治療から支援とその役割は変化している。そのなかで理学療法の治療効果をさらに向上させていくためには、患者の意欲は重要な意味をもつ¹⁾。これは高血圧や動脈硬化、糖尿病などの生活習慣病の予防においても同様であり、生活や運動習慣の改善に意欲は大きく影響する²⁾。よって理学療法時は患者の意欲を向上させ、能動的な行動を促す発言や心理的配慮、工夫が大切となる。池田ら³⁾は理学療法時のこうした配慮や工夫を理学療法ケアと位置づけ、それらの重要性を示唆している。

理学療法時の患者の意欲を高める方法の一つに患者へのあいさつ⁴⁾や声かけ⁵⁾がある。先行研究では、励ましや共感、賞賛などの肯定的な声かけが意欲の向上に有効であり、その一方で押しつけや否定的な声かけは意欲を低下させることが示唆されている⁶⁾。このように声かけは非常にデリケートなものであり、患者側の価値観や文化的、宗教的、道徳的側面などとも相まって効果が表れるため、エビデンスの構築も非常に難しいとされる。しかしながら、声かけなどの技術は理学療法に欠かせないものであり方法論の確立が望まれる。そこで今回、声かけの言い回しに着目し、エビデンスの構築に向けた予備的調査を行うこととした。具体的には、否定的な声かけを肯定的な声かけに言い換えることが意欲の向上に効果的である⁴⁾という理由から、同一場面における肯定的な声かけと否定的な声かけを想定し、それらの言い回しが患者の意欲の向上に影響するかを比較検討した。

本研究の目的は、理学療法時の肯定的、否定的な声かけによる言い回しが、患者の意欲の向上に影響するかを明らかにすることである。

II. 対象と方法

1. 対象

対象は、アンケート調査に協力を得られた入院患者37名（男性17名、女性20名、年齢69.9 ± 12.6歳）とした。疾患の内訳は、整形外科患者30名、脳外科患者7名であった。また、すべての対象者については理学療法を実施していた。なお本研究は、所属機関の承認を得て行われており、ヘルシンキ宣言に基づき研究の趣旨、目的、内容、方法などの説明を文章および口頭にて行い、同意を得た上で実施した。

2. 方法

対象者に対し、紙面によるアンケート調査を実施した。調査方法は、リハビリでよく遭遇し、意欲と関連があると思われる場面を紙面に記載し、その場面において

声かけすることを想定した肯定的な言い回し、否定的な言い回しの両方を読んでもらい、それぞれでどう感じるかを回答してもらった。声かけの言い回しの設定については、木菱ら⁷⁾が活用した言葉を、本質は変更せずに患者に理解しやすく親しみやすい言い回しに変更して用いた。したがって、意欲を測定できているかという構成概念妥当性については直接意欲を聞いていること、また他の評価との関連を示す基準関連妥当性については木菱のものを利用してのことから、一定の妥当性は担保できていると考えた。

具体的には、理学療法士が臨床において退院に向けた対応が多く、また意欲と関連する場面^{6,7)}と考えられる、1) トイレ練習、2) 歩行練習、3) 痛みへのリハビリの3つの場面を想定し、場面ごとに肯定的な声かけと否定的な声かけの言い回しを設定し、合計6つの設定に対して回答を得ることにした。

次に、それらの声かけがなされたと想定し、双方の言い回しに対しどのように感じたかを、①やる気が出る、②どちらともいえない、③やる気を失う、の3つから選択してもらった。声かけに関する設問の詳細は表1に示す。

分析方法は、①の回答を選択したものを“意欲群”、それ以外の回答②および③を選択したものを“非意欲群”として分類した。この際、3択にし、回答②をあえて設定したのは、明らかに意欲が向上したものを抽出しやすくするためである。そして、3つの場面において肯定的、否定的な声かけの言い回しごとに意欲群、非意欲群の人数を集計し、2つの声かけの言い回し間で、意欲の向上に違いがあるかを McNemar 検定によって分析した。統計学的有意水準は1%とした。なお、統計解析には、EZR version1.32を使用した⁸⁾。

III. 結果

結果は、1) トイレ練習、2) 歩行練習、3) 痛みへのリハビリの3つの場面において、肯定的な声かけによる言い回しが、意欲群は非意欲群に比べて有意に人数が多かった。しかし、痛みへのリハビリの際だけは、否定的な言い回しにおいても意欲群が比較的にみられた。それらの結果を表2に示す。

IV. 考察

声かけの言い回しを考えると、フレーミング効果と呼ばれる概念がある。これは意思決定場面においては論理的に同値であっても、選択肢の表現の違いが選好に影響する現象とされている⁹⁾。これには3つの類型があり、その1つに本研究で用いた目標フレーミングとよばれるものがある。それは説得的なメッセージが、行動した時

表1 トイレ練習、歩行練習、痛みへのリハビリの各場面を想定した設問

場面と声掛けの種類	設問
1) トイレ練習	
肯定的	トイレ練習が上手くできれば、家に帰れますよ。
否定的	トイレ練習が上手くできないと、家に帰れませんよ。
2) 歩行練習	
肯定的	歩行練習を頑張れば、早く一人で歩けるようになりますよ。
否定的	歩行練習を頑張らないと、一人で歩けるようになるのが遅くなりますよ。
3) 痛みへのリハビリ	
肯定的	痛いけどリハビリをすれば、少しずつ良くなってきますよ。
否定的	痛いけどリハビリをしなければ、少しずつ悪くなりますよ。

※3つの場面における肯定的な声かけ、否定的な声かけによる設問に対して、①やる気が出る、②どちらともいえない、③やる気を失う、のいずれから選択。

の肯定的な結果を強調するのか、あるいは行動しなかったときの否定的な結果を強調するのかの図式により、操作が行われるものとされている¹⁰⁾。目標フレーミングについては、Meyerowitzら¹¹⁾は女子大学生を対象とした研究において、行動しなかったときの否定的な結果を強調する方が効果は高いことを報告しており、またLevinら¹²⁾は、大学生を対象とした研究において、フレーミング効果が認められなかったことを報告している。このように目標フレーミングの効果は、いまのところ対象や方法を含め一定した見解が得られていないといえる。

他方、理学療法分野においては、こうした声かけ効果があることは経験的に理解されているものの、言い回しやフレーミング効果などについての検証は厳密にはなされておらず、理学療法の治療効果にどのような影響を与えているのかについては不明である。患者の社会や文化的背景などが多様化してくると、こうした言い回しの受け止め方は多様化してくると考えられ、現場における声かけの言い回し効果は違ってくるものと思われる。よって継続して検討する必要性が認められる。

本研究の結果では、理学療法時を想定した3つの場面の全てにおいて、肯定的な声かけの言い回しにおける、患者の意欲の向上が認められた。

特にトイレ練習、歩行練習における2つの場面では、肯定的な声かけの言い回しは、「家に帰れる」「歩けるようになる」の肯定的な結果部分に意識を集中させたものと考えられ、患者自身が望む状態を直接的に想起させた可能性が大きく、否定的な声かけの言い回しでは、「家に帰れない」「歩けるようになるのが遅くなる」の部分に意識が集中し、望まない状態を想起させたものと推察される。このように声かけの言い回しを変えるだけで、患者の受け止め方が変わり、意欲の向上に影響している可能性が示唆された。

一方、痛みへのリハビリ場面においては、肯定的な言い回しで意欲の向上が認められたが、トイレ練習や歩行

表2 トイレ練習、歩行練習、痛みへのリハビリの各場面における声かけの言い回し効果

場面 肯定的声かけ	否定的声かけ		
	意欲群	非意欲群	計
1) トイレ場面			
意欲群	8	25	33
非意欲群	0	4	4
計	8	29	37
2) 歩行練習			
意欲群	7	28	35
非意欲群	0	2	2
計	7	30	37
3) 痛みへのリハビリ			
意欲群	14	17	31
非意欲群	4	2	6
計	18	19	37

練習に比べると、否定的な声かけの言い回しでも意欲の向上を示したものが多く認められた。この原因は、痛みがなくなるという状態が想起しにくいことに加え、痛みは解消されにくいといった否定的な受け止め方が意欲の向上を助長したためと考えられる。こうしたことから、痛みの場合には、言い回し効果だけでなく、どのような理由で痛みが生じているのかや、具体的にどのようにリハビリを進めていくと痛みが軽減するのかなどの説明を加え、良い状態を想起させやすくすることが意欲の向上につながっていく可能性が大きいと考えられた。

このようにリハビリの場面や症状によって、声かけの言い回し効果は違ってくるものと考えられ、それぞれの場面や症状によって言い回しを変えたり、説明を加えたりするなどの方法論の検討が必要になると考えられた。また、言語や文法の違いから生じる受け止め時の脳内メカニズムの違いや、どのような状態やタイミングに言い回し効果が有効に機能するのかといった文脈的な理解、さらには患者の社会背景などとの関連性についても明ら

かにしていくことが今後の課題になると考えられた。

最後に、本研究は、予備的な研究であったが理学療法現場における声かけの肯定的な言い回しが、患者の意欲の向上に有効な手段の1つになりうる可能性を示唆した。理学療法士におけるこうした技術は従来、理学療法士自身のセンスや経験によって養われてきたが、エビデンスを蓄積し方法論として確立することができれば、教育や実践に大いに役立ち、理学療法士の質的な向上に貢献できると考えられる。また、こうした研究は条件設定や統制が難しいうえに、多様な要因が絡むことからエビデンスの蓄積が難しい側面をもっており、一定の限界を有する。しかし今後は、疾患群や時期の統制や、肯定的な声かけと否定的な声かけをランダム化し、相対・相乗効果などをできるだけ排除するといった工夫を取り入れ、研究的な枠組みを見直すことでエビデンス構築に貢献していきたい。

謝辞 本研究の実施にあたり、ご理解とご協力をいただきました対象者の皆様、病院スタッフの皆様に深く感謝をいたします。

引用文献

- 1) 安藤健士, 中濱正則, 栗原勝則・他: がん終末期患者に対しての理学療法介入による効果と今後のターミナルケアに対しての関わり方への検討. 理学療法—臨床・研究・教育, 2011, 18(1): 31-34.
- 2) 高木悦子, 山口桂子, 富田寿都子・他: 特定保健指導の継続支援における行動変容を促進させる要因についての検討. 人間ドック, 2009, 24(4): 865-869.
- 3) 池田耕二, 山本秀美, 黒田未貴・他: 直腸がんによるストーマ造設と化膿性関節炎による大腿骨頭切除を施行したがんサバイバー1人の二つの体験. 理学療法科学, 2016, 31(1): 175-180.
- 4) 鯨岡栄一郎: 理学療法における患者の動機づけを向上させる技術. 理学療法ジャーナル, 2014, 48(4): 305-311.
- 5) 木菱由美子, 高橋由美子, 佐々木和人: リハビリテーションにおける患者様への効果的な声かけについて. 専門リハビリテーション, 2009, 3: 25-29.
- 6) 林 悠太, 久保 晃: 高齢入院患者の生活意欲とADL, 体格との関連—回復期・慢性期の傾向—. 理学療法科学, 2010, 25(1): 143-146.
- 7) 小河徳恵, 佐野涼子, 黒岩尚美・他: 術後患者の回復意欲となる要因. 山梨大学看護学会誌, 2003, 1(2): 29-33.
- 8) Kanda Y: Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZR' for medical statistics. Bone Marrow Transplant, 2013, 48(3): 452-458.
- 9) 箱田裕司, 都築誉史, 川端秀明・他: 認知心理学. 有斐閣, 東京, 2010, p209.
- 10) 佐々木宏之: 意思決定フレーミング効果の三類型—幼児の発達と保育の観点を踏まえて—. 暁星論叢, 2010, 60: 55-72.
- 11) Meyerowitz BE, Chaiken S: The effect of message framing on breast self-examination attitudes, intentions, and behavior. J Pers Soc Psychol, 1987, 52(3): 500-510.
- 12) Levin IP, Gaeth GJ, Schreiber J, et al.: A new look at framing effects: Distribution of effect sizes, individual differences, and independence of types of effects. Organ Behav Hum Dec Process, 2002, 88(1): 411-429.